

高幡地域アクションプランの進捗状況等について

H 2 5 . 9 . 5

高幡地域本部

1 地域アクションプランの上半期の実施状況（総括）

(1) 総評

昨年大きく動き出した海洋堂ホビー館や満天の星の取組は、海洋堂ホビー館は入場者数が昨年を上回っており、満天の星も昨年のオープン時に比較すると売上は減っているものの、本年度は県外へのPRに力を入れて取り組むこととしており、全国各地で開催される「おめぎフェア」やデパート等での催事に積極的に参加している。

この2つの取り組みを中心に大きく動き出し、AP事業主体の意識が高まっているものと課題があきらかになったAPがでてきている。

AP事業主体の意識が高まっているものの代表が、「けんかま」が取り組むシイラ加工食品の生産拡大で、これまで産業振興アドバイザー事業や農商工連携事業を活用して取り組んだ結果、大きな販売先を獲得し、1ヶ月で昨年の売上を上回った商品も誕生している。このことが職員の意識向上にもつながり更なる飛躍を目指して取り組んでいる。

課題があきらかになった事業主体や新たにAPを目指す事業主体には産業振興アドバイザー制度を積極的に活用し課題解決などに取り組んでいる。

この結果、5つのAPが新たに加わる予定となっている。

また、6月7日に津野町で開催された産業振興シンポジウムには約270名が参加した。

(2) 具体的な動き

① 地域の重点的な動き

重点的な取組	取組状況（結果、成果を含む）・課題と今後の対応
<p>まとまりのある産地づくり</p> <p>■No.1 地域基幹園芸品目の生産振興と農家の所得向上（須崎市、中土佐町、津野町）</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JA土佐くろしお ・JA四万十 	<p>[目標（H27）]</p> <p>主要農産物販売額：H27 園芸年度 55 億円</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>主要農産物販売額：H25 園芸年度 53.8 億円</p> <p>[取組状況]（7 月末実績）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現地検討会、目慣らし会等（25 回開催） ・栽培及び低コスト現地実証ほの調査・検討（39 ヲ所） ・IPM技術実証圃の調査・検討（24 ヲ所） ・排液及び循環型処理装置の実証・検討（4 ヲ所） <p>[課題と今後の対応]</p> <p>栽培技術の定着化</p> <p>⇒実証圃の調査・検討の継続実施</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No.2 中山間地域での持続可能な農林業経営の確立(梶原町、津野町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ J A津野山 <p>■No.3 基幹品目等の維持・発展による地域農業の活性化(四万十町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ J A四万十 	<p>[目標(H27)]</p> <p>農協取扱主要品目売上:5.9億円 所得400万円以上の農家数:5戸</p> <p>[H25到達点]</p> <p>農協取扱主要品目売上:5.3億円 所得400万円以上の農家数:4戸</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 栽培指導 栽培講習会5回、現地検討会8回、実証圃設置2カ所、個別巡回指導等50回(7月末実績) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>平坦地なみの所得をあげるための進捗管理 ⇒個別巡回指導等の継続実施</p> <p>[目標(H27)]</p> <p>ニラ販売金額:10億円</p> <p>[H25到達点]</p> <p>ニラ販売金額:9.3億円</p> <p>[取組状況](6月末実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現地検討会等の開催 ミョウガ1回、ピーマン2回、ニラ4回、露地ショウガ2回 ・ J Aと連携した品目別経営分析説明会の開催 5品目(ミョウガ、ピーマン、ニラ、キュウリ、アスパラガス) 参加率61% <p>[課題と今後の対応]</p> <p>重油高騰の影響 ⇒重油高騰の影響や対策等を加味した品目別経営分析の実施</p>
<p>森を活かす取組</p> <p>■No.14「四万十ヒノキ」のブランド化を主体とした地域森林資源の有効活用(中土佐町、四万十町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 四万十町森林組合 ・ 須崎地区森林組合 ・ 四万十町内製材業者 	<p>[目標(H27)]</p> <p>四万十ヒノキのブランド品販売 : 原木9,000m³、製品売上高2.7億円 F S C等森林認証面積:5,700ha F S C認証材製品売上高:20百万円 J A S認定工場:1社増設</p> <p>[H25到達点]</p> <p>四万十ヒノキのブランド品販売 : 原木7,000m³、製品売上高2.5億円 F S C等森林認証面積:5,644ha F S C認証材製品売上高:10百万円</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 15 循環型社会の構築を促進するための森林資源の有効活用(梶原町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・梶原町森林組合 ・梶原町 ・ゆすはらペレット(株) 	<p>[取組状況] (7月末実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外商活動延べ115回(県内65回、県外50回) ・製品売上高4.46千万円 うちFSC製品3.6百万円 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・顧客のニーズに応じた商品の開発・改良 ⇒アンケート等を実施して、商品の問題点等を検討 <p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> 木材生産量: 5,000 m³ 認証材の販売量: 1,600 m³ ペレット原材料の調達: 3,900t ペレット生産量: 1,700t <p>[H25到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> 木材生産量: 2,800 m³ 認証材の販売量: 1,400 m³ ペレット原材料の調達: 3,900t ペレット生産量: 1,700t <p>[取組状況] (7月末実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・営業活動延べ32回(県内19回、県外13回) ・ペレット生産に関する協議(9回) ・認証材販売量383 m³ ・ペレット生産量537t <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・FSC認証材の知名度をあげる ⇒営業活動の充実
<p>■No. 16 「1億円産業の復活」をスローガンとする津野山産原木シイタケの産地化の推進(梶原町、津野町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JA津野山 	<p>[目標(H27)]</p> <ul style="list-style-type: none"> 乾燥シイタケの販売量: 11t <p>[H25到達点]</p> <ul style="list-style-type: none"> 乾燥シイタケの販売量: 8.9t <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> 県椎茸品評会への出展(5月) 全農全国椎茸品評会への出展(6月11日～13日) 椎茸生産部会 小部会(億産会)の開催(8月3日) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> 1億円産業に向けた戦略の策定 ⇒JA担当者や生産者部会と協議

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>地域の特産品を活用した商品づくり</p> <p>■No. 22 シイラ加工の生産体制の強化 (四万十町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 四万十町 ・ 興津漁協四万十マヒマヒ丸企業組合 ・ 興津漁協 <p>■NO. 23 シイラ加工食品の生産拡大 (四万十町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 榑けんかま <p>■NO. 27 「中土佐のうまいもん食わしちやお」 商品開発プロジェクト(中土佐町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 企画・ど久礼もん企業組合 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>加工品販売金額：15,000 千円</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>加工品販売金額：15,000 千円</p> <p>[取組状況]</p> <p>通常総会開催 (5/30)</p> <p>商談 (2 件)</p> <p>従業員の常勤雇用 (6 月から)</p> <p>[課題と今後の対応]</p> <p>原魚の確保及び経営管理、生産体制の強化 ⇒不足時の他所からの原魚購入の検討</p> <p>[目標 (H27)]</p> <p>フィレ取扱数量：34t</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>フィレ取扱数量：25t</p> <p>[取組状況]</p> <p>こうち農商工連携事業によるアドバイザーの招聘 (5 回)</p> <p>[課題と今後の対応]</p> <p>競合他社製品との差別化を図る仕掛け ⇒特許申請の検討</p> <p>[目標 (H27)]</p> <p>開発する商品数：5 商品</p> <p>売上高：28,000 千円</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>開発する商品数：2 商品</p> <p>売上高：28,000 千円</p> <p>[取組状況] (7 月末実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新商品の開発 (かつおレアステーキ、海鮮丼のたれ) ・ テレビ取材等によるPRの実施 (7 回) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>ファーストフード店の経営安定 ⇒産業振興アドバイザー制度の活用等</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>6次産業化への取組等による拠点ビジネス</p> <p>■No. 29 津野町地産地消・外商販売戦略 (津野町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさとセンター ・津野町 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>高知店販売額：90 百万円 総販売額：162 百万円</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>高知店販売額：90 百万円 総販売額：156 百万円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加工所・アンテナショップ満天の星 売上高：61,831 千円 (7 月末) (対前年比：73.8%) ・販売会議・経営会議・直販所連絡会・満天の星定例会での売上高の分析・改善強化などを実施 ・直販所 (6 ヶ所、満天の星直販部門含む) 売上高：36,417 千円 (6 月末) (対前年比 87.8%) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>十津店の改善 ⇒産業振興アドバイザー制度の活用</p>
<p>■No. 30 四万十町拠点ビジネス体制の強化 (四万十町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・榎めぐり窪川 ・四万十町 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>地域産品・土産品等の磨き上げ及び新商品開発 ：5 品目以上</p> <p>道の駅めぐり窪川販売金額：4.2 億円 アンテナショップ販売金額：4.5 千万円 常勤雇用者数：3 名</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>地域産品・土産品等の磨き上げ及び新商品開発 ：5 品目以上</p> <p>道の駅めぐり窪川販売金額：3.5 億円 アンテナショップ販売金額：4.3 千万円 常勤雇用者数：3 名</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四万十町拠点ビジネス運営協議会 (7 月末実績) 総会 1 回 担当者会 2 回 生産者会 1 回 事務局会 3 回 販促イベント 3 回 ・道の駅めぐり窪川 売上高：59,471 千円 (5 月末実績 対前年比 132.5%) ・アンテナショップ しまんとマルシェ「四万十の蔵」 売上高：11,193 千円 (7 月末実績) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>アンテナショップのコンセプト、戦略等の見直し、強化 ⇒産業振興アドバイザーの活用</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>中心市街地の賑わいづくり</p> <p>■No. 24 須崎市まち全域がサービスエリア構想推進事業(須崎市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・須崎市 ・須崎市まち全域がサービスエリア構想推進委員会 	<p>[目標(H27)]</p> <p>街角ギャラリー来場者数:1万人 日・木曜日出展者:80店 携帯サイトアクセス数:10,000千件</p> <p>[H25到達点]</p> <p>街角ギャラリー来場者数:4,000人 日・木曜日出展者:60店 携帯サイトアクセス数:6,000千件</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・街角ギャラリー、旧三浦邸に地域おこし協力隊を導入 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>新たなまちづくり ⇒須崎未来塾での検討</p>
<p>滞在型、体験型観光の推進</p> <p>■No. 31 須崎市の教育旅行や団体旅行の誘致に向けた体制の整備(須崎市)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・須崎市観光協会 ・NPOすさきスポーツクラブ <p>■No. 32 中土佐町の地域資源を活用した体験型観光の推進(中土佐町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中土佐町 	<p>[目標(H27)]</p> <p>民泊受入世帯数:100世帯 教育旅行受入数:10,000人</p> <p>[H25到達点]</p> <p>民泊受入世帯数:100世帯 教育旅行受入数:5,000人</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育旅行の営業:50件(9月末見込み) ・教育旅行の受入:4,500人(9月末見込み) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>民泊受入世帯の増加 ⇒受入世帯100世帯に向けた営業活動の実施</p> <p>[目標(H27)]</p> <p>体験受入数:2,300人</p> <p>[H25到達点]</p> <p>体験受入数:1,900人</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上ノ加江漁業体験PR (高知市内の小学校4校、高知市老人クラブ連合会) ・上ノ加江漁業体験の実施:8回 参加人数86人 (7月末実績) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>人材の育成 ⇒インストラクター養成講座の開催</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 33 梶原町の体験型・滞在型観光の推進 (梶原町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・梶原町商工会 ・梶原町 ・松原まろうど会 ・坂本龍馬脱藩の郷 ゆすはらであいの会 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>宿泊者数：8,500人 施設利用者数：97,500人</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>宿泊者数：8,300人 施設利用者数：90,000人</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「梶原千百年物語り」情報発信拠点オープン (4/7) ・愛媛県へのイベント参加によるPR 4/20～21 砥部焼まつり ・主要宿泊施設宿泊者数：2,576人 (対前年比：96.4%) (7月末実績) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>梶原千百年物語りのPR不足 ⇒県内、愛媛県等周辺自治体に対するPR活動</p>
<p>■No. 34 清流と風と歴史に会えるまち津野町 まるごと体感！～観光集客アップ作戦～ (津野町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・津野町 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>主要宿泊施設年間宿泊者数：9,800人</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>主要宿泊施設年間宿泊者数：9,500人</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新茶PR・津野町ふれあい特産市、関連イベント (4回) ・県外向けラジオPR (8回) ・主要宿泊施設宿泊者数：3,494人 (対前年比：110.1%) (7月末実績) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>四万十川源流点観光拠点施設のあり方の検討 ⇒船戸地区でのワークショップ開催</p>
<p>■NO. 35 わざわざいこう「海洋堂ホビー館四万十」を核としたミュージアムのまちづくり (四万十町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四万十町 ・(株)海洋堂 ・(株)奇想天外 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>ホビー館の1年間入場者数：50,000人 常勤雇用者数：3人</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>ホビー館の1年間入場者数：50,000人 常勤雇用者数：3人</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入館者数 28,748人 (7月末実績) 前年同期比 112.0% ※のべ入館者数：178,590人 (H23.7.9～H25.7.31) ・企画展開催：4回 「エヴァンゲリオンフィギュアワールド」3/16～5/27

取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>「本格的美少女ディープフィギュアの世界」6/8～9/30 「打井川のお宝展」3/16～4/15 「土佐模型クラブジオラマ展」4/20～6/10 ※海洋堂かっぱ館入場者数 15,326 人 (7 月末実績)</p> <p>[課題と今後の対応] ・海洋堂ホビー館を拠点とした滞在型観光の仕組みづくり ⇒観光協会や地元団体等との連携強化</p>

②上記以外で特記すべき取組

取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 12 滞在型市民農園等を活用した四万十町の移住を受け入れやすい風土づくり(四万十町)</p> <p>《事業主体》 ・四万十町 ・営農支援センター四万十(株)</p>	<p>[目標 (H27)] 施設稼働率：90% 移住者数：15 組</p> <p>[H25 到達点] 施設稼働率：90% 移住者数：8 組</p> <p>[取組状況] ・クラインガルテン四万十の入居状況 滞在型 22 棟 うち全棟入居 日帰型 16 区画 うち利用 15 区画 (7 月末) ・お試し滞在住宅運営状況 大正中津川 2 組 (2/12～4/11、7/5～8/4) 広井 1 組 (4/22～6/10) ・移住相談窓口での相談件数 52 件 (7 月末)</p> <p>[課題と今後の対応] ・入居者の移住に繋がる仕組みづくり ⇒地域住民との交流促進、サポート体制の整備</p>
<p>■NO. 21 中土佐町地域ブランドの創出と販売促進(中土佐町)</p> <p>《事業主体》 ・中土佐町</p>	<p>[目標 (H27)] —</p> <p>[H25 到達点] —</p> <p>[取組状況] (7 月末実績) ・観光物産センターを事務所移転し、情報発信機能を強化。 ・観光キャラクターを活用した PR 活動 8 回 ・「ぴんぴ鯉のタタキ」をイベントで PR：東京、大阪各 1 回 ・水産物加工施設整備に係る作業検討会の実施：5 回</p>

取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	[課題と今後の対応] ・「ぴんぴ鯉」(少量、高価格)に次ぐ商品の開発及びブランド化の検討。 ・水産物加工施設の整備に向けた、販売戦略と事業構築等の検討 ⇒産業振興アドバイザーの活用

2 平成 25 年度産業振興推進総合支援事業費補助金の導入状況(交付決定又は採択事業)

単位：千円

取組	事業概要	総事業費(補助金額)
■No. 11 四万十の栗再生プロジェクト (四万十町)	・お茶栗カフェ兼加工場の整備 ・栗やお茶等を利用した商品開発及び加工	41,968(19,985)
■No. 8 直売所・農家レストランを核とした「地消地産」の推進(四万十町) ※ステップアップ事業	・直販所及び農家レストランの基本コンセプトの作成	1,890(900)
■No. 8 直売所・農家レストランを核とした「地消地産」の推進(四万十町) (農業振興部対応)	・「みどり市」の改修と「しまんとキッチン」の新設	111,597(50,000)

3 地域アクションプランの追加、修正(予定)項目

[追加] ■葉にんにくを活用した加工食品の生産・販売の拡大(須崎市)

須崎市浦ノ内で生産している葉にんにくを使った「ぬた」の生産・販売の拡大を行う。

■梶原産キジ肉の生産・販売の拡大(梶原町)

梶原町内で生産しているキジ肉の外販及び町内での飲食を広め、後継者育成を含め生産・販売を拡大する。

■県産竹材を活用した加工品づくりのための竹材の安定供給(須崎市)

高知市のAP18「県産竹材を用いた新規分野への製品展開」と連携したAPで、須崎地区森林組合が竹製品加工のために安定した竹材の供給を行う。

■四万十かおりビジネス事業(四万十町)

四万十川流域のヒノキの間伐材、端材を活用し、ヒノキの香りを活かした商品の開発・販売を行い、森林の保全につなげる。

■地域産物を活用したお魚チップスの生産・販路の拡大(須崎市)

昨年開発したお魚チップスに地域の産品とのコラボ商品を開発し生産・販路の拡大を行う。

- [修正] ■N021 中土佐町地域ブランドの創出と販売促進
 (理由) 水産加工施設の整備を行うこととなったため
- N026 久礼の浜屋敷整備事業
 (理由) 町議会で否決されたことにより計画の再検討が必要となったため
- N037 四万十町の地域経済活性化の核となる宿泊事業への取組
 (理由) 地域の活性化のために検討する事業の範囲拡大及び事業実施主体の見直し

4 県民参画に向けた取組

○産業振興計画シンポジウムの案内

- ・津野町広報誌での案内
- ・地域アクションプラン事業者への案内
- ・地域団体への案内

○土佐MBAへの参加の働きかけ

- ・(株)満天の星、JA四万十女性部、打井川地区会食部会、アースエイド など

5 相談案件：10件

NO.	相談日	事業種別	相談内容
1	4/17	農業	さかなを使った肥料の開発について
2	4/24	観光	管理釣堀の設置について
3	5/15	食品加工	昆布養殖の産業化について
4	5/23	食品加工	加工場の整備の補助金について
5	5/30	食品加工	四万十川流域の安心安全な食材を使った加工品の販売について
6	6/4	商工	四万十町内へのホテル建設について
7	6/11	食品加工	葉にんにくのぬたの販売促進について
8	7/18	販売戦略	サンシャイン四万十を核とした四万十の地場産品の販売戦略について
9	8/12	林業	展示場の整備
10	8/14	観光	四万十生姜プロジェクト

追加項目(案)

【高幡地域】

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
38 葉にんにくを活用した加工食品の生産・販売の拡大 《須崎市》	須崎市浦ノ内地区産の葉にんにく、国産の麦味噌、白味噌を使用したぬたを生産しており、東京の料亭やホテルなどに販売している。今後、契約農家等での増産を行い、新商品の開発に取り組むとともに販路の拡大を行う。	(株)アースエイド			<p>◆生産の拡大</p> <p>◆販路拡大及び須崎市内での販売拡大</p>

第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
	<p>生産の拡大</p> <p>→</p> <p>自社生産の増加、契約農家での生産増加</p> <p>加工施設等の整備</p> <p>新製品の開発</p> <p>→</p> <p>販路拡大及び須崎市市内での販売拡大</p> <p>業務筋等への直接営業・国内商談会等への出展・参加</p> <p>須崎市市内でのイベントでの販売、コラボ商品の開発</p>				売上額: 5,000千円(H25見込み)	20,000千円

追加項目(案)

【高幡地域】




項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
39 梶原産キジ肉の生産・販売の拡大 《梶原町》	梶原町内で生産されているキジの品質向上等のために飼育環境の改善を行い、飲食店や百貨店等への販路拡大の取組を行うとともに町内飲食店での消費の向上を図る。また、生産者の所得の向上を図り、後継者の育成を行う。	梶原町雉生産組合			<p>◆品質の向上と出荷体制の強化</p> <p>◆販路開拓</p> <p>◆地元でのキジ肉消費向上</p>

第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
	<p>品質の向上と出荷体制の強化</p> <p>飼育環境の改善、加工施設の検討、熟成システムの構築</p> <p>生産加工施設、熟成施設等の整備</p> <p>生産者の増加、生産量の拡大</p>				<p>販売額 H24: 10,869千円</p>	<p>30,000千円</p>
	<p>販路開拓</p> <p>販促資材の作成</p> <p>業務筋等への直接営業・国内商談会等への出展・参加</p>					
	<p>地元でのキン肉消費向上</p> <p>各種イベントでの販売、地元飲食業者と協働した新メニューの検討</p>					

追加項目(案)

【高幡地域】

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
40 県産竹材を活用した加工品づくりのための竹材の安定供給 《須崎市》	県内の竹製品製造業者に対して原材料である県産竹材を安定的に供給することにより地域産業の発展に貢献するするとともに森林組合の収益の向上、雇用の創出による地域の活性化を図る。	須崎地区森林組合			<p>◆事業地(竹林)の確保</p> <p>◆機械設備の導入</p> <p>◆原竹の供給</p>

第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
	 <p>事業地(竹林)の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現地調査による竹林状況の把握 ・竹林所有者との交渉による同意の取得 ・効率的かつ継続的に生産が可能な事業地(竹林)の確保 				原竹供給本数	30,000本/年
	 <p>機械設備の導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バックホウ (0.16m³・4t) ・グラブ (アタッチメントのみ) ・運搬車 (不正地走行用) ・トラック(4t) ・チェンソー (竹先端処理用) ・H型鋼柱 (竹材集積用)等 					
	 <p>原竹の供給</p> <ul style="list-style-type: none"> ・竹材の低コスト生産システムと安定供給体制の構築 ・竹材の安定供給 					

追加項目(案)

【高幡地域】

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
41 四万十かおりビジネス事業 《四万十町》	四万十川流域の地域産品である「四万十ヒノキ」の間伐材や端材を活用した商品を開発し、県内外に広く流通、販売していくことで「四万十ヒノキ」のブランド化につなげるとともに、地域の活性化を図る。	(株)四万十ドラマ			<p>◆商品開発</p> <p>◆販路開拓、販売促進、人材育成</p> <p>◆生産体制の確立及び施設等整備</p>

			H28以降	指標及び目標	
H25	H26	H27		指標	目標値(H27)
<p>商品開発</p> <p>・試作品の開発 ・モニタリング調査</p>			→	新商品の開発 商品売上高 (H24:11,000千円)	3商品 40,000千円
<p>販路開拓、販売促進、人材育成</p> <p>雇用の確保 (営業担当)</p> <p>人材育成</p> <p>モニタリング調査と合わせた営業活動による販路開拓、販売促進</p>			→		
<p>生産体制の確立及び施設等整備</p> <p>生産体制の確立、強化</p> <p>加工場等の整備</p>			→		

追加項目(案)

【高幡地域】

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
42 地域産物を活用したお魚チップスの生産・販路の拡大 《須崎市》	H24に農商工連携事業を導入し、初めての菓子製造となるお魚チップスを開発し3種類の味で販売している。今後は、地元産の野菜などとのコラボ商品を開発するとともに販路の拡大を行う。	・(株)けんかま			<ul style="list-style-type: none"> ◆業態拡大計画の策定 ◆菓子製造のための体制づくり ◆販売の拡大

第2期計画				H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27		指標	目標値(H27)
	<p>業態拡大計画の策定</p> <p>菓子製造事業を展開できる体制と整備の道づくり</p>	<p>菓子製造のための体制づくり</p> <p>菓子製造のための組織体制づくり</p> <p>加工機器等の整備</p>			販売袋数：約6万袋 (H25見込み)	15万袋
		販売の拡大				
			商品開発・試作品生産			
			市場調査・商品改良			
			販促資材等の作成			

修正項目(案)

【高幡地域】

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
21 中土佐町地域ブランドの創出と販売促進 《中土佐町》 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;">修正前</div>	観光物産センターを設立し、中土佐町の観光情報発信及び観光客の誘致を行うとともに、物産においても、スラリーアイスを活用した付加価値の高い水産物(カツオ、メジカ、ウルメ、アマダイ等)のブランド化を図り、販路を開拓するとともに、町内の他の地域産品を併せて総合的に販売促進に繋げていく。	・中土佐町	・スラリーアイスの活用(H21~23) ◆平成21年度に施設を整備し、スラリーアイスを活用した魚価向上対策として実証実験、官能試験を実施してきた。その結果、地元漁師や協力店等から高い評価を得ており、特にカツオは、新しい保存方法を用いると48時間後でも刺身で食べることが可能との結果となり、有効性が証明された。 官能試験の協力店(県外2店、高知市内8店、町内9店) 受注販売(県外1店舗、県内6店舗)	・スラリーアイスを活用した高鮮度の魚を管理し、安定して流通させ、販路開拓を行えるシステムの確立 ・スラリーアイスを活用した高鮮度の魚の認知向上	◆観光物産センターの設立 ◆地域物産品の販売促進活動 ◆スラリーアイスを活用した高鮮度水産物の販売ルートの開拓



項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
21 中土佐町地域ブランドの創出と販売促進 《中土佐町》 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;">修正後</div>	観光物産センターを設立し、中土佐町の観光情報発信及び観光客の誘致を行うとともに、物産においても、スラリーアイスを活用した付加価値の高い水産物(カツオ、メジカ、ウルメ、アマダイ等)のブランド化を図り、販路を開拓するとともに、町内の他の地域産品を併せて総合的に販売促進に繋げていく。	・中土佐町	・スラリーアイスの活用(H21~23) ◆平成21年度に施設を整備し、スラリーアイスを活用した魚価向上対策として実証実験、官能試験を実施してきた。その結果、地元漁師や協力店等から高い評価を得ており、特にカツオは、新しい保存方法を用いると48時間後でも刺身で食べることが可能との結果となり、有効性が証明された。 官能試験の協力店(県外2店、高知市内8店、町内9店) 受注販売(県外1店舗、県内6店舗)	・スラリーアイスを活用した高鮮度の魚を管理し、安定して流通させ、販路開拓を行えるシステムの確立 ・スラリーアイスを活用した高鮮度の魚の認知向上	◆観光物産センターの設立 ◆地域物産品の販売促進活動 ◆スラリーアイスを活用した高鮮度水産物の販売ルートの開拓 ◆水産加工場等の整備

第2期計画					H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	指標		目標値(H27)	
観光物産センターの設立	観光物産センターの活動の展開				→		
観光物産センターの設立							
地域物産品の販売促進活動	地域産品の販売先の開拓と流通販売の拡大				→		
スラリーアイスを活用した高鮮度水産物の販売ルートの開拓	県内外への販売ルート開拓と安定した供給体制の確立				→		
商標登録							



第2期計画					H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	指標		目標値(H27)	
観光物産センターの設立	観光物産センターの活動の展開				→	商品販売高 (H24:8,408千円)	25,000千円
観光物産センターの設立							
地域物産品の販売促進活動	地域産品の販売先の開拓と流通販売の拡大				→		
スラリーアイスを活用した高鮮度水産物の販売ルートの開拓	県内外への販売ルート開拓と安定した供給体制の確立				→		
商標登録							
	水産加工場等の整備				→		
	水産加工場、付帯加工施設等整備						

修正項目(案)

【高幡地域】

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
26 久礼の浜屋敷整備事業 《中土佐町》 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">修正前</div>	久礼新港背後地において、中土佐町の豊かな自然や食材、伝統文化や人といった地域資源を有効に活用して、町全体の賑わいの創出につながる施設等を整備し、所得向上や雇用の創出をはじめ町全体に経済効果を波及させる。	・中土佐町	・久礼新港背後地利用計画(H22~23) ◆久礼新港の背後地利用については、「まちづくり検討委員会」や関係者と賑わいの創出に繋がる施設整備に向けて協議検討するとともに、用地取得や経営計画策定業務を委託するなど具体的に動き始めた。 用地取得完了 (買収面積A=9,752.04m2) 温泉掘削作業完了 (泉温31.5℃、湧出量53L/min)	・施設の運営管理者の決定及び育成 ・計画に参画する多様なニーズを持つ関係者との調整 ・津波避難対策	◆久礼の浜屋敷(仮称)施設等の整備 ◆津波避難路の整備 ◆賑わいの創出への展開



項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
26 久礼の浜屋敷整備事業 《中土佐町》 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto; background-color: black; color: white;">修正後</div>	久礼新港背後地において、中土佐町の豊かな自然や食材、伝統文化や人といった地域資源を有効に活用して、町全体の賑わいの創出につながる施設等を整備し、所得向上や雇用の創出をはじめ町全体に経済効果を波及させる。	・中土佐町	・久礼新港背後地利用計画(H22~23) ◆久礼新港の背後地利用については、「まちづくり検討委員会」や関係者と賑わいの創出に繋がる施設整備に向けて協議検討するとともに、用地取得や経営計画策定業務を委託するなど具体的に動き始めた。 用地取得完了 (買収面積A=9,752.04m2) 温泉掘削作業完了 (泉温31.5℃、湧出量53L/min)	・施設の運営管理者の決定及び育成 ・計画に参画する多様なニーズを持つ関係者との調整 ・津波避難対策	◆久礼の浜屋敷(仮称)施設等の整備 ◆津波避難路の整備 ◆賑わいの創出への展開

第2期計画					H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	指標		目標値(H27)	
<p>久礼の浜屋敷(仮称)施設等の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> H24: 運営管理者の検討及び運営体制の確立及び地元協議、基本設計、実施設計 H25: 運営管理者の決定、施設整備 H26-27: 施設の活用に関して協議、検討 							
<p>津波避難路の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> H24: 津波避難路設計 H25: 津波避難路整備 							
<p>賑わいの創出への展開</p> <ul style="list-style-type: none"> H24-25: 地域資源の掘り起こし、商品開発、メニュー検討、運営方針の協議検討 H26-27: 運営開始、賑わいの創出への営業方策の展開 							



第2期計画					H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	指標		目標値(H27)	
<p>久礼の浜屋敷(仮称)施設等の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> H24: 運営管理者の検討及び運営体制の確立及び地元協議、基本設計、実施設計 H25-27: 運営管理者の決定、施設整備、施設の活用に関して協議、検討 							
<p>津波避難路の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> H24: 津波避難路設計 H25: 津波避難路整備 							
<p>賑わいの創出への展開</p> <ul style="list-style-type: none"> H24-25: 地域資源の掘り起こし、商品開発、メニュー検討、運営方針の協議検討 H26-27: 運営開始、賑わいの創出への営業方策の展開 							




修正項目(案)

【高幡地域】




項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
37 四万十町の地域経済活性化の核となる宿泊事業への取組 《四万十町》 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 20px auto;">修正前</div>	宿泊施設を整備し、そこを拠点に海洋堂ホビー館や海洋堂かっぱ館、奥四万十自然体験村構想等の地域資源を活用することで、通過型から滞在型観光へのシフトを図り、観光分野を産業として構築、四万十町の経済波及効果に繋げていく。	・大正建設業(協)			◆事業計画の作成及び関係機関との調整 ◆宿泊施設の整備 ◆商品開発及び販路開拓



項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
37 四万十町大正地区の地域経済活性化の核となる事業への取組 《四万十町》 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 20px auto;">修正後</div>	拠点施設を整備し、海洋堂ホビー館や海洋堂かっぱ館、奥四万十自然体験村構想等の地域資源を活用することで、通過型から滞在型観光へのシフトを図り、観光分野を産業として構築、四万十町の経済波及効果に繋げていく。	・(株)デベロップ大正 ・四万十町商工会大正支所 ・四万十町			◆事業計画の作成及び関係機関との調整 ◆拠点施設の整備及び商店街活性化事業の運営 ◆商品開発及び販路開拓

第2期計画				H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27		指標	目標値(H27)
 事業計画の作成及び関係機関との調整 収益調査の実施と調査結果をふまえた事業計画の作成						
 宿泊施設の整備 ホテル建設				ホテル運営 体制づくりと人材育成		
 商品開発及び販路開拓 地域資源の掘り起こし及び地域との連携強化 商品開発、宣伝(HP等宣伝ツールの作成)、販路開拓						



第2期計画				H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27		指標	目標値(H27)
 事業計画の作成及び関係機関との調整 収益調査の実施と調査結果をふまえた事業計画の作成						
 拠点施設の整備及び商店街活性化事業の運営 商店街活性化事業の計画策定				施設整備計画、施設整備、施設運営 体制づくりと人材育成		
 商品開発及び販路開拓 地域資源の掘り起こし及び地域との連携強化 商品開発、宣伝(HP等宣伝ツールの作成)、販路開拓						

有望素材シート（25年度）（案）

『地域アクションプラン』検討過程での有望素材の洗い出し

市町村名	須崎市	素材名	葉にんにく
		関連素材	麦味噌、白味噌、三温糖

現状・課題	<p><現状> 化学農薬、化学肥料を一切不使用の葉にんにく及びにんにく球の生産・販売 葉にんにく、にんにく球を使用した加工食品の製造販売 加工品は、大豆、大麦、塩、全て国産100%の麦味噌、白味噌のみ使用。合成保存料、合成着色料一切不使用。 H25年8月12日に株式会社として法人化。</p> <p><課題> 販路拡大を行い、高知市内の加工会社を通じ、東京の料亭やホテル、また福岡県内のホテルチェーンからの注文がある。現在は1人で生産を行っており他に販路を拡大していく余裕がない。 葉にんにくの増産。 他の商品の開発。</p>
	今後の方向性

「有望素材」を活かした具体的な取り組み（案）

『地域アクションプラン』における具体的な取り組み案

項目	取り組み名	葉にんにくを活用した加工食品の生産・販売の拡大			
	関係市町村名	須崎市			
事業の概要	1. 生産の拡大 葉にんにくの生産量を増加（自社、契約農家）し、商品の増加を行う。				
	2. 販路拡大及び須崎市市内での販売拡大 県外市場への販路拡大。須崎市市内での提供店舗の発掘。				
事業主体等	【事業主体】 ・(株)アースエイド 【関係機関】 ・契約農家（よさこいファーム、小田切農園、北川農場）				
主な内容・スケジュール	取組手順	事業実施【H25】	1年後【H26】	2年後【H27】	3年後【H28以降】
	生産の拡大	葉にんにくの生産増加	契約農家の発掘		
指標・目標	販路拡大及び須崎市市内での販売拡大				
	項目	事業実施【H25】	1年後【H26】	2年後【H27】	3年後【H28以降】
売上高	5,000千円（見込み）	12,500千円	20,000千円	30,000千円	
【設定根拠】	【推計の考え方】 現在の売上状況からH25は少なくとも5,000千円の売上が見込める。葉にんにくは12月から2月にかけて収穫するが、作付けが前年度の3倍程度あることからH26は少なく見積もって12,500千円を見込み。その後も契約農家の増加等による作付けの増加やH26には生産体制（加工施設など）の強化を図ることから売上高の向上を見込んでいる。				
	【考え方】				

総事業費等	総事業費 30,000千円（うち25年度 14,500千円） （内訳 国：10,000千円 県：10,000千円 市町村： 其他：10,000千円）
	想定する支援事業（補助金名称、人的支援の内容、その他） 国：10,000千円 県：産業振興総合補助金10,000千円 人的支援：国（10,000千円） その他：
備考	

有望素材シート（25年度）（案）

『地域アクションプラン』検討過程での有望素材の洗い出し

市町村名	梶原町	素材名 関連素材	キジ
------	-----	-------------	----

現状・課題	<p><現状> 梶原町のキジの生育は昭和50年代から行われており、数戸の生産者が高麗キジの育成を始め、加工孵化等を行っていた。梶原町の指導の下、昭和60年4月に「梶原町雉生産組合」を設立した。 現在8名の生産者が約5,000羽のキジの雛を育成しており、地元道の駅などの直販所やインターネット、口コミでの販売を行っている。</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 生産者が一時期18名いたが、現在は8名となっており、高齢化と次世代の後継者不足 売上は、ネット販売を実施しておりリピーターも多いが、新たな商品開発と販路の確保が必要 町内の飲食店での提供体制とPR 品質向上のための飼育環境の改善
	<p>今後の方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> 梶原町内の飲食店での提供を促し、PRを実施 首都圏への販路拡大 品質の向上を行い、付加価値を付けて価格の上昇を行い、生産者の所得向上を目指すとともに後継者の育成を行う。

「有望素材」を活かした具体的な取り組み（案）

『地域アクションプラン』における具体的な取り組み案

項目	取り組み名	梶原産キジ肉の生産・販売の拡大				
	関係市町村名	梶原町				
事業の概要	1 品質の向上と出荷体制の強化	キジ肉の肉質向上に向けた飼育環境の改善やアドバイザーの導入。加工施設等の整備。				
	2 販路開拓	飲食店や百貨店等への販路拡大に向けた、商談会への参加。				
	3 地元でのキジ肉消費向上	地元飲食店でのキジ肉の消費向上。新たな加工商品の開発。				
事業主体等	【事業主体】 ・梶原町雉生産組合					
	【関係機関】					
主な内容・スケジュール	取組手順	事業実施【H25】	1年後【H26】	2年後【H27】	3年後【H28以降】	
	品質の向上と出荷体制の強化	アドバイザーの導入や飼育環境の改善加工施設の検討、熟成システムの構築 生産加工施設、熟成施設等の整備 生産者の増加、生産量の拡大				
	販路開拓	販促資材の作成 業務筋等への直接営業 国内商談会への参加・視察	業務筋等への直接営業 国内商談会への参加	業務筋等への直接営業 国内商談会への参加	業務筋等への直接営業 国内商談会への参加	
	地元でのキジ肉消費向上	料理の開発 取扱店の拡大 新たな商品開発				
指標・目標	項目	事業実施【H25】	1年後【H26】	2年後【H27】	3年後【H28以降】	
	売上高	20,000千円	25,000千円	30,000千円	50,000千円	
	【設定根拠】	【推計の考え方】 ・生産雉数の増加、肉質の向上、生産者の増加により取引量増加を行う。				
仕分	P(保)	【考え方】	【考え方】			
総事業費等	総事業費	千円	(うち25年度 千円)			
	(内訳 国： 県： 千円 市町村： 千円 其他： 千円)					
	想定する支援事業（補助金名称、人的支援の内容、その他）	国： 県：産業振興総合補助金 人的支援：				
	その他：					
備考						

有望素材シート（25年度）（案）

『地域アクションプラン』検討過程での有望素材の洗い出し

市町村名	須崎市	素材名 関連素材	竹
現状・課題	<p><現状> 現在、自動車用竹製ハンドルの製造を南国市の㈱ミロクテクノウッドで、またその前処理加工を高知市の㈱コスモ工房で行っており、竹製ハンドルの増産計画や新商品の開発計画があるが材料となる竹材の確保が課題である。</p> <p>竹材は、土佐市の弘田竹材店が集荷して㈱コスモ工房に納入しているが、竹材生産は個人の生産者が多く高齢化しているため竹材の安定的な供給ができていない状況にある。このため、須崎地区森林組合では、平成25年2月から3月にかけて試験的に竹材の出材を行った。</p> <p><課題> 竹材を搬出するための事業地（竹林）が必要であるが、須崎地区森林組合の管内の竹林は小規模で点在しているため、管轄外市町村での事業地（竹林）の確保が必要である。</p> <p>また、竹林（事業地）を集約して路網を整備するとともに、竹材を効率的に出材するためには林業用機械等資機材の整備が必要である。</p>		
今後の方向性	<p>竹製ハンドルが好評で搭載車種の増加が検討されるとともに、新商品の開発も検討されていることから、今後も竹材の需要が見込まれる。このため、須崎地区森林組合が竹材の安定供給を行うことにより、県産竹材を使用した取り組みを支援するとともに、新規就業者の雇用及び森林組合の収益向上につなげる。なお、竹材の納入時期については協議中であり、受け入れの可否も含めて9月末に決定予定である。</p>		

「有望素材」を活かした具体的な取り組み（案）

『地域アクションプラン』における具体的な取り組み案

項目	取り組み名	県産竹材を活用した加工品づくりのための竹材の安定供給			
	関係市町村名	須崎市			
事業の概要	<p>県内で実施している竹製品製造業者に対して原材料である県内産の竹材を安定的に供給することにより地域産業の発展に貢献するとともに森林組合の収益向上、雇用の創出による地域の活性化を図る。併せて、竹林の拡大により荒廃した里山林の整備をおこなう。</p> <p>1. 事業地（竹林）の確保 竹材搬出のための事業地の調査及び地権者との交渉により、県産竹材の安定供給に必要な竹林を確保する。</p> <p>2. 機械設備の導入等 竹材搬出作業に必要な下記の機材を導入するとともに新規従業員を2名雇用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> バックホウ(0.16m³・4t) グラブ(7tツチノミ) 運搬車(不正地走行用) トラック(4t) チップパー(竹先端処理用) H型鋼柵(竹材集積用) <p>3. 原竹の供給 竹材を低コストで安定的に供給するシステムを構築するとともに、年間を通して竹材を安定的に供給する。</p>				
事業主体等	<p>【事業主体】 ・須崎地区森林組合</p> <p>【関係機関】 ・弘田竹材店(土佐市) ・㈱コスモ工房(高知市) ・㈱ミロクテクノウッド(南国市)</p>				
主な内容・スケジュール	取組手順	事業実施【H25】	1年後【H26】	2年後【H27】	3年後【H28以降】
	事業地（竹林）の確保				
	機械設備の導入				
指標・目標	項目	事業実施【H25】	1年後【H26】	2年後【H27】	3年後【H28以降】
	竹材供給本数	5,000本/年	30,000本/年	30,000本/年	30,000本/年
	【設定根拠】	<p>【推計の考え方】 事業地面積 30,000本×3年÷6,400本/ha=約15ha 原竹生産本数 H25は2,500本/月×2ヶ月 H26以降は 2,500本/月×12ヶ月で算定</p> <p>【考え方】</p>			
総事業費等	<p>総事業費 16,229千円 (うち25年度 16,229千円)</p> <p>(内訳 国: 県: 10,818千円 市町村: その他: 5,411千円)</p> <p>想定する支援事業(補助金名称、人的支援の内容、その他) 国: 県: 高知県産業振興推進総合支援事業 人的支援: その他:</p>				
備考					

『地域アクションプラン』検討過程での有望素材の洗い出し

市町村名	四万十町	素材名	四万十ヒノキの間伐材
		関連素材	ひのきオイル

現状・課題	<p><現状></p> <p>高幡地域アクションプランN014で推進している「四万十ヒノキ」のブランド化については、平成23年8月、広域4市町村（四万十町、中土佐町、四万十市、三原村）で連携して「四万十ヒノキブランド化推進協議会」を発足した。平成25年度の目標は、原木生産7,000m³、製品売上2.5億円とし、FSC認証材（原木）等の販売促進に取り組んでいる。</p> <p>四万十ヒノキを活用した加工品としては、大手メーカーの机や椅子、家具等を製作している（四万十町森林組合）ほか、「四万十のひのき風呂」（株）四万十ドラマや「ひのきオイル」（株）エコロジー四万十等の商品も開発、販売されている。</p>
	<p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、APの動きとしては、「四万十ヒノキ」の地域団体商標登録を目指しているが、全国に対してネームバリューが弱く、FSC認証材の販売や高付加価値化への取り組みは苦戦している。今後、木材業界だけでなく、エンドユーザー（生活者）の目線から認知度を高めていく必要がある。 ・間伐材等を活用した加工商品も、直販所等での品揃えアイテムとして販売しているが、「四万十ヒノキ」を軸とした商品開発には至らず、地域産業として確立できていない。
今後の方向性	<p>四万十川流域の地域産品である「四万十ヒノキ」の間伐材や端材を活用した商品を開発し、首都圏を含め広く一般消費者向けに流通、販売していくことによって、「四万十ヒノキ」の認知度を高め、ブランド化につなげる取り組みを進めていく。また、ヒノキ商品の生産加工は、地域の工務店や木エグループを活用することによって、地域の活性化を図る。</p>

「有望素材」を活かした具体的な取り組み（案）

『地域アクションプラン』における具体的な取り組み案

項目	取り組み名	四万十かおりビジネス事業
	関係市町村名	四万十町

事業の概要	<p>○1トンの「間伐ひのき」から1リットルの「ひのきオイル」が抽出される。</p> <p>○間伐材の天然成分を使った商品開発を行うことにより、森を育てる。</p> <p>○「木材」としては売れない木を「かおり」と捉えることにより、新しい商品、産業を創出する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 商品開発 「四万十ヒノキ」の認知度を高めるため、ノベルティー商品や記念品、イベント景品等としての活用を企業や自治体等に働きかけ、ニーズに合った商品を開発。 2. 販路開拓、販売促進 県内外の銀行、観光業、百貨店、出版会社、官公庁 等 3. 生産体制の確立、施設等整備 生産体制の確立及び加工場の新設 等
-------	---

事業主体等	<p>【事業主体】 （株）四万十ドラマ</p> <p>【関係機関】（株）エコロジー四万十、四万十町森林組合</p>
-------	---

主な内容・スケジュール	取組手順	事業実施 【H25】	1年後 【H26】	2年後 【H27】	3年後 【H28以降】
	商品開発	・試作品の開発 ・モニタリング調査	・商品開発		
販路開拓、販売促進 人材育成	・モニタリング調査と合わせた営業活動 ・雇用の確保（営業）	・販路開拓、販売促進	・人材育成		
生産体制の確立 施設等整備	・生産体制の確立 ・加工場等の整備計画策定	・生産体制の強化 ・加工場の施設整備	・設備整備 等		

指標・目標	項目	事業実施 【H25】	1年後 【H26】	2年後 【H27】	3年後 【H28以降】
	商品開発数 商品販売高	3商品 1,500万円	3,000万円	4,000万円	5,000万円
【設定根拠】	【推計の考え方】 ・原価率30%、営業経費20% ・1名新規雇用（営業担当）				

仕分	P(保留)	【考え方】
----	-------	-------

総事業費等	<p>総事業費 千円 (うち25年度 千円)</p> <p>(内訳 国： 県： 市町村： その他：)</p> <p>想定する支援事業（補助金名称、人的支援の内容、その他） 県：地域林業総合支援事業、産業振興総合補助金 人的支援： その他：</p>
	備考

有望素材シート（25年度）（案）

『地域アクションプラン』検討過程での有望素材の洗い出し

市町村名	須崎市	素材名	魚肉すり身（シイラ、メジカ、その他）菓子
		関連素材	ミョウガ、シヨウガ、タケノコ、シイタケ、お茶など

現状・課題	<p><現状></p> <ul style="list-style-type: none"> ●けんかまは興津マヒマヒ丸と連携してシイラのすり身技術を開発し、マヒマヒ竹輪を平成23年3月から販売を始めた。このマヒマヒ竹輪は農林水産大臣賞の受賞などその品質の高さが評価されたが、社会情勢の変化でねり製品の低価格競争が激化し、販売数量は計画数量を大きく下回った。このため24年度から「こうち農商連携事業」を導入し、シイラのすり身やマヒマヒ竹輪の菓子・惣菜加工製品の開発販売を行った。この結果、本来水産物が持っている健康食材というだけでなく、様々な素材との結びつきの良さが再確認され、現在「シイラ+青さのり」「シイラ+メジカ」のお菓子、さらには「マヒマヒ竹輪+カニかま」「マヒマヒ竹輪+四方竹」などの惣菜加工品が、首都圏デパートバイヤー等から注目され、販売数量が増えている。 ●蒲鉾業者としてけんかまにはすり身、焼き、揚げる、蒸すといった技術とねり製品生産ラインがあるが、菓子の加工は現在手作業で行っており、生産量に限界があり今後の需要拡大に応えられないだけでなく、経営資源を新たな商品開発に注ぐことが困難になっている。このような菓子製造事業には、すぐに類似の追随商品が出てくることから、常に新しい商品の開発が当該事業を継続する必須条件と言われている。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・菓子製造の効率的生産力の取得 ・新商品開発力とそのスピードの保持 ・首都圏における戦略的な販売活動
今後の方向性	<ol style="list-style-type: none"> 1. 水産物練加工業から菓子製造業への業態拡大 2. 菓子製造の生産量の拡大 3. 新商品開発力と開発速度の維持・増大 4. 須崎の地魚など高幡地域の豊富な食素材の活用（高幡地域の食材を活かすための県内食材の活用も含む） 5. 周辺地域の特産品素材や生産物との連携 6. 首都圏への戦略的な販売活動の展開

「有望素材」を活かした具体的な取り組み（案）

『地域アクションプラン』における具体的な取り組み案

項目	取り組み名	地域産物を活用したお魚チップスの生産・販路の拡大
	関係市町村名	須崎市（橋原町、津野町、中土佐町、四万十町）

事業の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 業態拡大（菓子製造）構想・ステップアップ計画の策定 水産練加工業からお菓子製造の事業を展開できる体制と設備等の道づくり 2. 菓子製造のための施設改修及び加工機器類の整備 加工場のための施設改修、包装機、充填機、レトルト加工機等の整備 3. 加工品開発力及びスピードの維持増大 視察研修及び工業技術センター、外部アドバイザー等によるプロジェクトチームの常態化 4. 試作品（市場調査）と販促資材（営業活動）の制作 試作品による試食等市場調査及びパンフ、幟等販促資材の制作
-------	---

事業主体等	<p>【事業主体】 株式会社 けんかま</p> <p>【関係機関】 須崎市（橋原町、津野町、中土佐町、四万十町）、工業技術センター、JA津野山、JA土佐くろしお、JA四万十、etc</p>
-------	--

取組手順	事業実施 【H25】	1年後 【H26】	2年後 【H27】	3年後 【H28以降】
業態拡大計画の策定	→ 菓子製造事業を 展開できる体制 と整備の道づくり			
菓子製造のための体制づくり		→ 菓子製造のための組織体制づくり 加工機器等の整備		
販売の拡大			→ 商品開発・試作品生産	→ 市場調査・商品改良
			→ 販促資材等の作成	

項目	事業実施 【H25】	1年後 【H26】	2年後 【H27】	3年後 【H28以降】	
指標・目標	販売袋数	約6万袋	127,500袋	150,000袋	
	【設定根拠】	【推計の考え方】 H25. 1月～8月の実績を基に廃止品目、新商品を考慮して算定。			
		【考え方】			

総事業費	20,000千円	（うち25年度	千円）
（内訳 国：	県：10,000千円	市町村：	その他：10,000千円）
想定する支援事業（補助金名称、人的支援の内容、その他）	産業振興総合補助金		
国：	県：10,000千円	人的支援：	
その他：			

備考	
----	--